



現在地 [ホーム](#) > [組織からさがす](#) > [埋蔵文化財調査センター](#) > お知らせ

## お知らせ

ページID : 0366505 掲載日 : 2023年5月16日更新

### 埋蔵文化財調査センターからのお知らせです

【令和4年度】

#### 愛知県埋蔵文化財調査センターの改修工事に伴う普及啓発事業等の一部変更について

当センターは令和4年度に大規模改修工事を行います。それに伴い、以下のとおり事業の変更を行います。

【事業の中止】

例年、実施しております次の事業について、**今年度は中止**とします。

- ・ 高校生のための考古学サマーセミナー（8月）
- ・ 秋の特別公開（11月）

【利用期間の制限】

次の事業について、**以下の期間は停止**とします。

- ・ 個人及び団体の施設見学 令和4年6月1日～令和5年3月31日
- ・ 展示室及び図書室の利用 令和4年6月1日～令和5年3月31日
- ・ 博物館等への遺物貸出 令和4年10月1日～令和5年3月31日
- ・ 資料調査等の遺物実見 令和4年10月1日～令和5年3月31日

\* 遺物貸出、遺物実見をお考えの機関・個人は、ご相談ください。

【連絡事項】

- ・ 6月以降は駐車場が使えなくなりますので、ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、日程を変更する場合があります。その際は改めてホームページにてお知らせします。

ご不便をおかけしますが、よろしく申し上げます。

なお、**出前授業等の普及啓発活動は通常通り実施します**。ご希望の機関はご連絡ください。

## 博物館・資料館に行こう！(5) 愛知・名古屋 戦争に関する資料館

調査研究課の城ヶ谷です。

今回は11月18日（金曜日）から令和5年3月5日（日曜日）まで、愛知県庁大津橋分室1階の「愛知・名古屋 戦争に関する資料館」で行われている企画展示「軍馬の歴史を探る」について紹介します。

この展覧会は軍馬の歴史についてパネルや出土品などを用いて展示するもので、当センターからは名古屋城三の丸遺跡から出土した馬の蹄鉄（ていてつ=写真上）と乗馬靴のかかとに付ける拍車（はくしゃ=写真下）をお貸ししました。

明治維新により名古屋城三の丸一帯の武家屋敷はすべて破却され、後に陸軍第三師団が置かれました。三の丸遺跡の発掘調査では馬具もたくさん出土しており、多くの軍馬がいたことが想定されます。

### 馬の歴史について

日本列島において、馬が活躍するのは古墳時代以降とされています。

それ以前、日本でも馬の化石が見つかることから、旧石器時代には馬が生息していたことが想定されています。しかし、その後の気候の温暖化で草原が森林に変わるなど、環境の変化により絶滅したとされています。



縄文・弥生時代に馬がいたかどうかは、まだ定説がありません。中国の史書『魏志倭人伝』では弥生時代の日本について「馬なし」と記述しています。

明治40年、名古屋市熱田区高蔵町付近で大津通の改修工事が行われた際に土器が出土しました。翌年、発掘調査が行われ、弥生土器とともに、刻み目のある馬骨、抜歯痕のある人骨などが出土し、高蔵遺跡の存在が明らかとなりました。なかでも馬骨の出土は、弥生時代における馬の存在に関わり、大きな議論となりました。他県でも同様の出土例が報告されていますが、縄文時代・弥生時代の馬の存在については、結論が出ていません。



古墳時代になると、馬具や馬形埴輪などの出土品が増え、馬が急速に普及したことがわかります。

それ以降、馬は家畜、荷馬や軍馬として活躍しましたが、近代、日清戦争を始め外国と戦争するようになると、日本の馬は欧米の馬に比べて体格が小さく、大砲などを牽く軍馬としてはあまり役に立たないことが明らかになりました。そこで当時の政府が国家的政策として馬の品種改良に取り組み、現在のような欧米並みの体格を持つ馬が誕生したということです。

今回の展示では、そのような軍馬の歴史を知ることができると思います（入館無料）。

### 愛知県庁大津橋分室について

愛知・名古屋 戦争に関する資料館が入る愛知県庁大津橋分室は1933（昭和8）年に愛知信用組合連合会の建物として建設され、1957年に愛知県に寄贈されたものです。設計は当時、愛知県総務部営繕課の建築助手であった黒川巳喜氏（愛知県出身の建築家黒川紀章氏の父）らによるもので、ゴシック風の柱、丸窓やバルコニーの装飾などが特徴的な昭和初めのモダンな建物です。内部は天井が高く、床や壁に貼られたタイル、カーブする階段の手摺りなど、各所に趣があります。



展示とともにぜひ建物もご覧になって下さい。

詳しくは右のホームページをご覧ください。[愛知・名古屋 戦争に関する資料館](#)

↑ [ここをクリック](#)

## 第1回全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会東海・北陸ブロック共同事業「埋蔵文化財(まいぶん)ってなあに？」始まる

調査研究課の城ヶ谷です。

**全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会**は全国の地方公共団体が設置した埋蔵文化財センター等が加盟する組織で、**埋蔵文化財の保護・公開・活用の充実や調査・研究水準の向上**などを目的に設立されました。

東海・北陸ブロックには下の8機関が所属しており、毎年各機関が抱えている課題について協議したり、情報交換をしたりして、埋蔵文化財行政の推進に努めています。

その中で、今年度から各機関が実施する展覧会等のイベントを相互に紹介する**ブロック共同事業「埋蔵文化財(まいぶん)ってなあに？」**を実施することとなりました。



各機関の[ところをクリック](#)していただき、イベントを確認して、近くにお出かけの際は、ぜひお立ち寄りください。

〔東海・北陸ブロックの加盟機関〕

[富山県埋蔵文化財センター（富山市）](#)

[福井県埋蔵文化財調査センター（福江市）](#)

[愛知県埋蔵文化財調査センター（弥富市）](#)

[三重県埋蔵文化財センター（明和町）](#)

[東浦町埋蔵文化財センター（愛知県東浦町）](#)

[安城市埋蔵文化財センター（愛知県安城市）](#)

[津市埋蔵文化財センター（三重県津市）](#)

[松阪市文化財センター（三重県松阪市）](#)

## 博物館・資料館に行こう！（4） 愛知県陶磁美術館

調査研究課の城ヶ谷です。

今回は、11月5日（土曜日）から**愛知県陶磁美術館**で行われる（公財）**瀬戸市文化振興財団**令和4年度企画展「戦時下のせとやき－近代後期の瀬戸窯と美濃窯－」について紹介します。

この展覧会は日清戦争以降、太平洋戦争に至るまでの長い戦争の道程を歩み続ける日本の「戦時下」における「せとやき」や陶磁器生産のうつりかわりなどを概観するものです。

当センターからは**瀬戸市北山窯跡**（ほくざんかまあと）から出土した陶磁器をお貸ししました。

**北山窯跡**は瀬戸市の北部、品野盆地北側の丘陵斜面に築かれた**近・現代の窯跡**です。平成27年度と平成29年度に発掘調査が行われましたが、**瀬戸でもこの時期の窯の発掘調査事例はほとんど無く、貴重な発掘資料**となりました。

窯は**房**（製品を焼成する小部屋）がいくつも連なった形の**連房式登窯**（れんぼうしきのぼりがま）と呼ばれるもので、**明治35（1902）年8月15日**が**初窯火入れ**であったと記録されています。

1902年といえば、**日清戦争後の三国干渉**などで日本とロシアの対立が深まり、イギリスとの間に（対露）**日英同盟**が結ばれた年です。この2年後の**1904年**に**日露戦争**が起こりました。



北山窯跡出土陶磁器（上部が陶器、下部が磁器）



北山窯跡出土窯道具

北山窯跡の製品には陶器の蓋・碗・すり鉢・植木鉢、磁器の碗・皿・湯呑などがあります（写真左上）。製品を焼くための道具である窯道具には色見（いろみ）・匣鉢（さやばち）・トチ・ツクなどがあります（写真上右）。

右下の写真は碗と匣鉢がくっついてしまった失敗品です。小型の製品はこのように匣鉢に入れられ、何段も積み重ねられて焼成されます。



お貸した出土品は**11月5日から12月18日まで**、**愛知陶磁美術館本館1階ギャラリー（陶芸展示室）**でご覧になれます（観覧無料）。

なお、**本館1階第1展示室・第2展示室**では**10月29日から令和5年1月15日まで**、**愛知県陶磁美術館特別展「平安のやきもの—その姿、うつろいゆく」**が開催されます。

瀬戸窯の源流である猿投窯（さなげよう）の**緑釉陶器**（りよくゆうとうき）・**灰釉陶器**（かいゆうとうき）の**優品**が多数展示されます。ぜひ、併せてご覧になってください。

詳しくは右のホームページをご覧ください。 [愛知県陶磁美術館](#) ←ここをクリック

### 博物館・資料館に行こう！（3） 設楽町奥三河郷土館

調査研究課の城ヶ谷です。

今回は、**設楽町奥三河郷土館**で行われている（公財）**愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター令和4年度の秋の埋蔵文化財展「悠久の記憶～設楽ダム関連発掘調査成果展～**」について紹介します。

秋の埋蔵文化財展は愛知県埋蔵文化財センターが毎年秋に実施していますが、今年**は設楽町において長年実施されてきた設楽ダム関連の埋蔵文化財発掘調査の成果を広く公開するため、主な出土遺物を現地で展示する**ということです。



展示は**奥三河郷土館2階企画展示コーナー**で行われており（無料）、**笹平（ささだいら）遺跡、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡**など7遺跡から出土した縄文時代から江戸時代に至る遺物が展示されています。

右下の写真は**笹平遺跡**から出土した**弥生時代前期の条痕系壺（じょうこんけいつぼ）**です。この時期、三河を中心に見られる**縄文文化の伝統を引き継ぐ条痕文土器**と呼ばれる土器ですが、上半部は弥生時代前期に西日本で流行した弥生文化の象徴的な土器である**遠賀川式（おんががわしき）土器**の特徴を持っています。**縄文と弥生が融合したデザインで、ほかには類例が無く、極めて珍しい土器**です。

会場である**奥三河郷土館**は、以前より**北設楽郡の拠点的な資料館**として知られていますが、令和3年5月に設楽町田口から清崎の地に移転して、オープンしたばかりです。



考古部門の他に歴史・民俗・自然関係の展示も行われています（有料）。西側に道の駅したらが併設されており、そこでは飲食や地元産品の買物もできます。

開催期間は8月31日（水曜日）から9月26日（月曜日）までです。

ぜひ、ご覧になってください。 ⇒ 終了しました。

詳しくは、以下のホームページを参照してください。

[愛知県埋蔵文化財センター](#) ← ここをクリック

条痕系壺（弥生時代前期）

[設楽町奥三河郷土館](#) ← ここをクリック

【終了しました】



## 博物館・資料館に行こう！（2） 幸田町郷土資料館

調査研究課の城ヶ谷です。

今回は、幸田町郷土資料館で行われている企画展「こうたのはじまり物語－牛ノ松遺跡と旧石器時代－」を紹介します。

この展示は幸田町牛ノ松（うしのまつ）遺跡出土を中心に県内各所の旧石器時代の石器資料を紹介するものです。牛ノ松遺跡は旧石器時代から縄文時代にかけての石器が包含層中からまとめて出土したことで知られています。

その石器群の中で、注目されるのが黒曜石製尖頭器（こくようせきせいせんとうき）です（写真右）。尖頭器は先端が鋭く尖っており、木の柄などにつけて投げ槍とし、狩猟などに使われたと考えられています。

黒曜石は県内では産出せず、黒曜石製の石器類は主に長野県和田峠周辺のものが用いられたと考えられています。

しかし、牛ノ松遺跡の黒曜石製尖頭器は、最近、蛍光（けいこう）X線分析などから、伊豆諸島の一つである神津島（こうづしま）産と推定されています。

神津島は伊豆半島の南端石廊崎沖約50kmの太平洋上にあります。伊豆諸島周辺は黒潮の分流が北上し、石廊崎沖は後世の太平洋沿岸航路のなかでも難所の一つとされています。

旧石器時代の人々はどのようにして神津島から黒曜石を手に入れたのでしょうか！

神津島産黒曜石で作られた石器は静岡県東部を中心に、関東南部各地から出土していますが、愛知県は最も離れた出土例の一つになります。



この黒曜石製尖頭器はどのような経緯で牛ノ松遺跡に運ばれたのでしょうか！

今回、貸し出した遺物は牛ノ松遺跡の他に岡崎市西牧野（にしまきの）遺跡、北設楽群設楽町川向東貝津（かわむきひがしかいづ）遺跡から出土した石器もあります。

展示は令和4年9月11日（日曜日）までです。ぜひご覧になってください。

[幸田町郷土資料館](#) ←ここをクリック



チラシ（おもて面）

【終了しました】

## 博物館・資料館に行こう！（1） あいち朝日遺跡ミュージアム

調査研究課の城ヶ谷です。

8月に入って暑い日が続くようになり、夏本番となってきました。海や山もいいですが、**博物館や資料館に行ってみませんか！**

お出かけ先として当センターが資料をお貸ししている博物館・資料館の企画展をいくつかご紹介します。

まずは清須市にある**あいち朝日遺跡ミュージアム**です。

今、ちょうど企画展「**弥生人といきもの2022 シカをねらえ！**」が開催されています。

**シカ**は弥生時代の人々にとって**いちばん身近で貴重な動物**でした。**シカの肉は食料**となり、**角や骨**は加工されて**装飾品や道具**として利用されました。**朝日遺跡（あさひいせき）**では**シカの肩甲骨（けんこうこつ）**を使って**太占（ふとまに）**と呼ばれる**占い**も行われていました。

また、**シカ**は**銅鐸（どうたく）**や**土器**に描かれる絵画によく登場します。

**オスの角**は毎年**春先**には**自然と根元から落ちて**、**夏にかけて再び新しい角が生えてくる**という**脱落と再生を繰り返す一年のサイクル**を持っています。角は体に合わせて**毎年大きくなり、枝分かれして立派なもの**になっていきます。

そのようなことから、おそらく弥生時代の人々は**シカを再生や豊穡に関わる神聖な動物**ととらえ、**絵画にもたくさん描いたもの**と思われます。

当センターからお貸ししている**稲沢市一色青海遺跡（いっしきあおかいいせき）**出土品にも**シカの絵**が描かれています。

写真1の**土製垂飾（どせいすいしょく）**は長さ3cm、直径1cmの**紡錘形（ぼうすいけい）**で、上端に穴が空けられています。おそらく、ここに**紐（ひも）**を通して、**ペンダント**のようにして使ったものと思われます。中央付近に**頭を左にしたシカが線刻**されています。

写真2の**土製筒形容器**には「**ベンガラ**」と呼ばれる**酸化鉄**が主成分の**顔料**を用いて、**縦一列に6頭のシカが描かれています**。全国的にも**線刻の類例は多くありますが、赤色顔料で描いた例は他にありません**。



写真1 土製垂飾



写真2 土製筒型容器

企画展は令和4年9月19日（日曜日）まで開かれています。ぜひ実物をご覧ください。

詳しくは右のホームページをご覧ください。 [あいち朝日遺跡ミュージアム](#) ←ここをクリック

【終了しました】

## 春の特別公開2022を開催します。

愛知県埋蔵文化財調査センターでは、毎年春に所蔵品のなかから逸品を選んで特別に公開しています。

今回は「戦国期の祈りと呪（まじな）い」というテーマで、戦国期に関わる出土品を展示します。

### 1 期間

令和4年4月4日（月曜日）～4月15日（金曜日） 午前9時から午後4時まで

4月9日（土曜日）・10日（日曜日）も特別に開館します。

\*入館無料

### 2 場所

愛知県埋蔵文化財調査センター（弥富市前ヶ須町野方802-24）

### 3 内容

#### (1) 展示

春の特別公開2022「戦国期の祈りと呪（まじな）い」 2階展示ケース

自然災害や疫病の蔓延、度重なる戦乱の中で戦国期の人々は何を願い、何に祈ったのでしょうか。遺跡からはその様子を垣間見ることができる遺物がいくつか出土しています。

呪符木簡（じゅふもっかん=写真1）は岩倉市岩倉城跡本丸内の溝から出土しました。表に「□鬼」「急々如律令」など、災いや邪気を追い払う言葉や記号が書かれています（□は判読不明）。これらは陰陽道（おんみょうどう）に関わるもので、疫病退散、病氣平癒などの願いが込められていると思われます。

写真2は柿経（こけらきょう）と呼ばれるもので、厚さ約1mmの薄い板に法華経を書き写したものです。清須市清洲城下町遺跡中堀近くの土坑から約千点が重なった状態で出土しました。追善供養や造塔の功德・写経の功德による死後の安楽を願うものと考えられています。

大鍬（おおぐわ）の鍬先（写真3）は清洲城下町遺跡本丸東側石垣の土台木付近から出土したものです。木身と鉄の刃先がほぼ完全に残っており、1586（天正14）年頃の清須城大改修に伴う石垣構築に際し、工事の無事を祈って納められたものと思われます。

写真4の鉄釉狛犬は清洲城下町遺跡中堀南側で、天正地震（1586年）以前に掘られた土坑から出土しました。瀬戸・美濃窯大窯の製品で、愛嬌のある顔つきをしています。形態や製作技法が類似する狛犬が西尾市久麻久（くまく）神社に所蔵されています。



写真1 呪符木簡



717



写真2 柿経



写真3 大鍬先



写真4 鉄釉狛犬

## (2) イベント

**火起こし体験** 4月9日（土曜日）・10日（日曜日） 午前10時から午後4時まで

1階 入口横駐車場 \*事前申込み不要、参加無料

## 4 その他

・同じフロアで、（公財）愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター春の埋蔵文化財展「やとみ新発見展 2022」と「発掘された愛知の城」が開催されます。4月9日（土曜日）・10日（日曜日）には「縁日」が開催され、「城輪投げ」「お宝記念撮影」などのイベントが行われます。入館・参加無料。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱症状のある方又は体調のすぐれない方はご来館をお控えください。また、来館時には手指の消毒とマスクの着用をお願いします。



ダウンロード → [チラシ \[PDFファイル/406KB\]](#)

【終了しました】



PDF形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe社が提供するAdobe Readerが必要です。  
Adobe Readerをお持ちでない方は、バナーのリンク先からダウンロードしてください。（無料）

[Tweet](#)

LINEで送る



[このホームページについて](#) | [個人情報の取扱い](#) | [免責事項・リンク](#) | [RSS配信](#)

**愛知県** 法人番号1000020230006

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

Tel : 052-961-2111 (代表)

**開庁時間** : 午前8時45分から午後5時30分

(土曜・日曜日・祝日・12月29日から1月3日を除く)

※開庁時間の異なる組織、施設があります。

[県機関への連絡先一覧](#)

[県庁へのアクセス](#)

Copyright Aichi Prefecture. All Rights Reserved.